

# CASBEE<sup>®</sup> 新築 [簡易版]

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築 (簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 右京区西院清水町計画 新	階数	地上7F
建設地	京都府京都市右京区西院清水町1	構造	RC造
用途地域	工業地域・準防火地域・20m第5種	平均居住人員	288 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年3月 予定	評価の実施日	2010年1月12日
敷地面積	2,642 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	1,098 m <sup>2</sup>	確認日	2010年1月20日
延床面積	5,771 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物 (参照値) と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.0

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
設計・デザインの中に京都らしさを与えることで、周辺にあるプラスイメージとの関連性を生み出す。住む人に京都で暮らしていると感じさせ、周辺環境と響きあう集合住宅である。	0	
<b>Q1 室内環境</b> 音・温熱・光視・空気環境に関して対策を施している。室内環境の向上に配慮し、シックハウス対策として、ホルムアルデヒド発散建築材料 (F☆☆☆☆) を使用している。	<b>Q2 サービス性能</b> 機能性・心理性・更新性に関して対策を施している。住宅性能評価書上の等級は、劣化対策等級 (構造躯体等) 3級、維持管理対策等級 (共用配管) 2級・維持管理対策等級 (専用配管) 3級である。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 景観・地域性・温熱環境に関して対策を施している。敷地境界際に植込を設けるなど、緑地計画を行っている。
<b>LR1 エネルギー</b> 設備システムの効率化に重点を置いている。燃焼系瞬間式給湯器や節水型便器を採用している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 有害物質を含まない建材種別を採用している。例えば、ハロン消化剤を一切使用していない。	<b>LR3 敷地外環境</b> 周辺環境への影響を配慮し、光害の抑制、温熱環境悪化の改善に努めている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される